

令和8年度第1回南三陸町歌津観光交流施設検討委員会 会議録

1 日 時：令和8年7月14日（火）午後3時から午後5時

2 出席委員：11名

阿部洋委員、牧野隆明委員、中村未来委員、栗林美知子委員、及川庄弥委員、
佐藤太一委員、三浦洋昭委員、今藤和義委員、高橋直哉委員、内ヶ崎彩委員、
滝川剛盤委員

3 欠席委員：2名

阿部國博委員、吉田信吾委員

4 出席職員：4名

商工観光課長 小野寺 洋明
商工観光課長補佐 佐藤 守謹
商工観光課主事 佐藤 悠
商工観光課主事 山下 栞奈

午後3時開会

（小野寺課長）

皆様、本日はお忙しいところお集まりをいただきありがとうございます。検討委員会開会に先立ちまして、委員の皆様へ委嘱状の交付を行わせていただきます。

【町長から出席委員へ委嘱状交付】

（小野寺課長）

委員へご就任いただき誠にありがとうございます。

本日の会議ですが、南三陸町歌津観光交流施設検討委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、委員の過半数が出席していることから、会議が成立することを申し上げます。それでは、開会にあたりまして、町長が挨拶を申し上げます。

（千葉町長）

本日はお忙しいところ検討委員会に出席していただきありがとうございます。また、日頃より、当町の行政運営にご協力いただいていることに感謝申し上げます。

さて、委員の皆様におかれましては、それぞれの立場において、経験と知見を活かして忌憚のないご意見をいただければと思っております。この歌津地区にとって、より良い施設を建設するというは勿論ですが、周りも生かすといった視点も持ちながら、検討委員会に参加していただければと考えております。先月、歌津の観光を語る夕べが開催され、町民の方々から様々な意見等をいただきました。施設建設について、反対意見はなかったと捉えておりますが、いずれにしても、当施設が、歌津地区の財産となり、歌津地区の方々が活躍できる場所であり、地域が賑わい、地域課題解決に繋がれば良いと思っております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

(小野寺課長)

ありがとうございました。

歌津観光交流施設検討委員会設置要綱第6条に、検討委員会の会長が議長となると定められておりますが、次第3「会長・副会長の選任」で会長が決まるまでの間、町長に仮議長を務めていただきます。

それでは、町長よろしく願いいたします。

(千葉町長)

それでは、暫しの間、仮議長を務めさせていただきます。南三陸町歌津観光交流施設検討委員会設置要綱第5条第1項により、会長及び副会長は委員の互選によって定めることとなっておりますが、どなたか、自薦、他薦はございませんでしょうか。

【事務局一任の声あり】

事務局案を発表してください。

(小野寺課長)

それでは、事務局案を発表させていただきます。

会長を及川庄弥委員、副会長を牧野隆明委員にお願いしたいと考えております。ご審議の程、よろしく願いいたします。

(千葉町長)

ただいま、事務局から会長に及川庄弥委員、副会長に牧野隆明委員という推薦がございました。皆様よろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

異議なしということで、改めまして会長に及川庄弥委員、副会長に牧野隆明委員を選出いたします。どうぞよろしく願いいたします。

3 会長・副会長の選任については以下のとおり

会 長 及川庄弥 委員

副会長 牧野隆明 委員

それでは会長及び副会長が決定致しましたので、仮議長の任を降ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(小野寺課長)

会長、副会長の選任について、ご決定いただきました。この後は及川会長を議長に会議を進めさせていただきます。なお、町長におかれましては、公務の都合上、ここで退席させていただきます。

ますのでご了承願います。

【町長退席】

及川会長、議長席へ移動願います。

【会長移動】

及川会長からご挨拶を頂戴します。会長よろしく願います。

(及川会長)

この度、会長に選任されました及川と申します。実は、今年の4月から、すばらしい歌津をつくる協議会の会長も務めております。すばらしい歌津をつくる協議会は地域づくり団体的な性格を有しており、この検討委員会も類似する点があると考えております。よろしく願います。

では早速、議事に入りたいと思います。次第4「検討委員会の目的・スケジュールの確認」について、事務局より説明をお願いします。

(佐藤補佐)

【資料に基づき説明】

(及川会長)

ありがとうございました。検討委員会の目的・スケジュールの確認ということで説明をしていただきましたが、質問や意見等がありますか。

(三浦委員)

歌津交流施設基本計画策定について、完成時期を今年度の上半期と想定しているが、9月までに今回の検討委員会を含めて4回開催するという認識でよろしいか。

(佐藤補佐)

はい。とてもタイトなものとなっております。2週間に1回程度のペースで検討委員会を開催しなければ、今年度の上半期までに間に合わないと感じております。委員の皆様のスケジュールや、当委員会が委員の過半数が出席しないと成立しないことなどを考慮して、今後の日程調整を行っていきたいと考えております。

(及川会長)

委員会の開催時間帯はどのように考えているのか。

(小野寺課長)

その件については、会の最後に、委員の皆様から意見をいただいて決めようと思っておりました。今回は1回目ということで、事務局にて15時と決めましたが、今後は、委員の皆様が出席可能な時間帯をお聞きして、調整したいと考えています。

(佐藤委員)

スケジュールに関する提案になるが、今後の検討委員会の開催回数や日付を決めてしまうのもありだと思う。

また、歌津観光交流施設基本計画策定期間について、今年度の上半期にこだわる理由は。

(小野寺課長)

委員の皆さんがよろしければ、会の最後に決めたいと思います。

上半期にこだわる理由としては、当事業は国の交付金を活用する予定であり、その交付金の基本計画の策定期間が決まっている関係上、9月を目標に進めていきたいと考えております。

(及川会長)

歌津観光交流施設基本計画策定にあたって、専門家の方からのアドバイス等をもらう予定等はあるのか。

(小野寺課長)

基本的には、この検討委員会で検討できる範囲で対応したいと考えておりますが、専門的な意見を聞きたいといった場合には、調整をいたします。

(牧野副会長)

基本計画策定までの流れで、委員会が4回あり内容が明確に記載されているが、厳密に資料に掲載されたスケジュール通り、進めていくといった認識でよろしいか。

(小野寺課長)

あくまでも目安として記載させていただいております。目安がないと、どうしてもその先が見えず、何を議論してよいか分からなくなるとおっしゃったので記載しました。話し合いが進むにつれて、資料に記載されていない事項についても検討が必要となる場合がございますので、その際は、ご協力いただければと思います。

(及川会長)

委員の方々は、事前に内容を考えてきて、委員会の時に発表するという形式でよろしいか。

(小野寺課長)

はい。この場で、すぐに考えるのは難しいので、あらかじめ検討いただきたい事項をお知らせすることで、委員の皆様も考えやすいのではないかと考えております。

(及川会長)

資料には、基本コンセプトや導入機能の方向性等が記載されているが、今後、会議の開催通知等を行う際に、委員の皆様にごどのようなことを考えてもらいたいのか、具体的な内容を示していただきたい。

(三浦委員)

先月開催された「歌津の観光を語る夕べ」で地域の方々がどんな話をされたのか、私自身、歌津観光交流施設の会議に出るのが初めてなので、情報を共有していただければ、少しは考えやすい。

(及川会長)

初めての会議でもあるので、具体的なイメージが湧かない方も多いと思う。「歌津の観光を語る夕べ」が2回開催されているので、その振り返りの内容を聞けば、少しでもイメージが湧くと思う。では、次第5「歌津の観光を語る夕べ」の振り返りについて、事務局へ説明を求めます。

(佐藤補佐)

【資料に基づき説明】

(及川会長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、皆様から質問やご意見はありますか。

(佐藤委員)

「歌津の観光を語る夕べ」には何名ほど出席したのか教えて欲しい。

(佐藤補佐)

6月12日開催には44名、6月13日開催には17名出席されました。

(佐藤委員)

出席者の年齢層等について教えて欲しい。

(佐藤補佐)

両日とも、若い世代の方はあまりおらず、高齢の方が多い印象でした。また、女性の出席者についても5名以下でした。

(及川会長)

私も6月12日に開催されたものに出席したが、多くの方が意見を述べている印象だった。

(三浦委員)

施設の核となるものは、化石と捉えてよろしいか。今後の協議の中で、それが変わることもあるということか。そのように考えていいか。

(佐藤補佐)

こちらからは、誘導することはできません。歌津の観光を語る夕べにおいて、出てきた意見が、世界に誇れる化石を生かした策を練っていくというのが一番多かったので、そこはぶれてはこないと感じております。

(牧野副会長)

歌津の観光を語る夕べでも出た意見になるが、化石は勿論必要であり、これだけでなく、他の機能等も入った複合的な施設が良いと思う。

(小野寺課長)

町長の発言においても、歌津の誇れる化石をメインとした施設を建てたいという話がありました。その他にどのような機能があれば、地域に賑わいが生まれるのかということを、当委員会で協議いただければと思います。

(及川会長)

合宿施設を有する平成の森やハマーレ歌津内のかもめ館等の既存資源があるが化石と連携させることはできないのだろうか。いつ来ても、ウニやアワビが食べることができたり、地域の人が集まって情報交換ができたりするような場所など、様々な要素を取り入れながら進めた方が良いと思っている。

(阿部洋委員)

歌津では、どこで魚を買うのか。海があるのに、どうして魚屋が無いのかと聞かれたことがある。確かに、志津川地区には魚屋があり、歌津地区には魚屋がない。化石は歌津地区にしかないものだが、それだけでは魅力が感じられない。志津川地区と重なる部分があるが、「食」にも視点を置くべきである。現在、ハマーレ歌津には飲食店舗が無い。やはり、歌津と言えば、海産物の町なので、それが食べられるような機能を設けるべきだ。

(中村委員)

東日本大震災前に魚竜館があったと思うが、当時の施設はどれくらいの来館者数があり。どのような地域から訪れていたのか知りたい。先月の12日と13日に開催された歌津の観光を語る夕べで、出た意見も勿論だが、この委員会で、委員の皆様から出た意見も強みとして、基本コンセプトの材料にできればいい。

(高橋委員)

私自身、化石は歌津の魅力の1つとして捉えている。13日に開催された歌津の観光を語る夕べに出席したが、その中で「見る・食べる・体験する」という意見が挙げられ、1日目も「学ぶ・食べる・体験する」という意見が挙げられたが、これが基本コンセプトになるのではないかと思う。

(小野寺課長)

基本コンセプトについては、次の次第6で協議をいただきたいと考えております。あくまで、次第5の内容は歌津の観光を語る夕べの振り返りとなっていますので、ご承知おきください。

(及川会長)

基本コンセプトについて、事務局案等は持ち合わせているのか。

(小野寺課長)

次の事項に移っていただければ説明いたします。

(及川会長)

はい。それでは、次第6「施設の基本コンセプト検討」について事務局に説明を求めます。

(佐藤補佐)

【資料に基づき説明】

(及川会長)

ありがとうございます。先ほど、高橋委員から基本コンセプトに関連する意見等もありましたが、委員皆様からご意見をいただきたいと思います。

それでは、阿部洋委員から順番に発言願います。

(阿部洋委員)

歌津は海と化石の町であるので、それらが基本コンセプトに入れられればいい。

(牧野副会長)

ハマーレ歌津に隣接する土地があり、そこは私有地であるが、現在、ハマーレ歌津が地権者から無償で借りている。千葉町長が先ほど、周りを生かすという話をしていたが、その周りには、ハマーレ歌津も含まれていると思う。それを踏まえて、無償で借りている土地に魚竜館を建設し、その施設から出てきた方がそのままハマーレ歌津に、物販や飲食をするために足を運ぶのではないだろうか。現在、ハマーレ歌津には空き店舗があるが、その場所を物販コーナーや飲食物を提供するコーナーにしたいと思っている。また、国道45号を挟んだ反対側に、ハマーレ広場があり、現在1店舗のみ営業を行っている。多くの人が交流したり、雨の日であっても遊べる場所を設けるとともに、ドッグランなどにも活用することが可能であると考えている。また、多くの皆さんが歌津は海の町という印象を持っているが、ハマーレ広場付近の防潮堤に遊歩道等を設置し歩けるようにしてもらい、歌津に来て海に触れたという思い出を残してもらいたい。

(中村委員)

基本コンセプトより細かい話になると思うが、個人的には新築よりは既存の建物の方がいいと思っている。新しい建物を建てるとしても、小さい建物の方がいいと感じる。小さくあった方が将来のことを考えたときに、そんなに町の負担にもならないと思うし、町民の方も大切に活用す

るのではないだろうか。整備を検討している魚竜館に何が入るのかは分からないが、牧野副会長の話を聞いて思ったのは、歌津には、海の他にも、田束山といった眺望がすばらしい山がある。南三陸町は海と山の距離が近いことが魅力の一つである。

（栗林委員）

初めて、この計画の内容を聞いたので、アイデアが湧いていない。既存の施設を有効活用していくべきだと思う。歌津の魅力としては、のぞみ福祉作業所があり、そこで開催しているイベントでは、東京都や仙台市から、たくさんのお客さんをお呼びしており、施設に入所している方が作成する作品は世界に誇れるものである。そういうのも活かしていくことができればいい。また、食べ物に関しては、志津川地区に比べて、歌津地区は専門店が多い印象である。タイ料理や海藻料理に特化しており、その点も魅力である。加えて、今検討している施設が、外からの観光客をお呼び込む場所なのか、住民の方も利用する場所なのかで変わってくると思う。平日も毎日、観光客で賑わう場所を作るのはハードルが高い。観光客と住民の両方が利用できる施設を考えた方がいい。

（内ヶ崎委員）

私の意見でもあり、「みなはぴ」で行ったタウンミーティングを開催した際に出た意見になる。5回タウンミーティングを開催したが、新しい建物を欲しいという意見は全く出なかった。しかしながら、夏は暑く、冬は寒いので、子ども達が室内で遊べる場所を開放してほしいという意見は毎回出ている。今ある既存の施設を有効活用し、平日もしくは週末に子ども達が親と一緒にいける場所がこの町にできれば嬉しい。ただ、気仙沼市に同様の施設ができる予定なので、近場に同じ施設があっても効果が無いので、中身を精査していただきたい。また、週末は町外で遊び、母親たちも町外で働いているので、町内の就職率や、町内の進学率も低くなっている状況なので、施設を建設した場合、将来、その建物の維持管理費を負担するのは、今の子ども達であるので、その点を考えて、協議を進めてもらいたい。

（滝川委員）

現在、地域おこし協力隊で、歌津にある海藻カフェの SEASON で働いている。南三陸町のことは、今年の2月に転入してきたばかりで、あまり詳しくはわかっていないが、魅力的なところがたくさんあると感じている。海だけでなく、川や山もあり、ネイチャーポジティブにも力を入れており、移住者の視点からすれば、環境に関しての取組が素晴らしい。観光交流施設について、交流人口の拡大にも寄与すると記載されているが、どこからの交流人口を指しているのかが気になる。気仙沼市や登米市等の近辺の方々が集まる施設なのか、他県の方々が集まるような施設なのか、この場所に来なければ、体験することができないといった基本コンセプトにするのか、どこを目指すかで内容が変わってくると思う。また、化石だけでなく、海、森、山などの魅力を含め、ネイチャーポジティブ等の取組を見せる施設があればいいのではないだろうか。

（高橋委員）

これまで、さまざまな施設を見てきたが、化石展示のみだと、子ども達は関心を示さない。しかし、化石の発掘体験をすると、子ども達は喜ぶことがある。子どもが興味なくても、親が体

験させたいと思い、申込されることもある。個人的には、展示というよりかは、体験させられる施設がいい。加えて、ハマーレ歌津付近にこのような施設があれば、店舗も埋まるし、食事をする方もおり、地域貢献にもなる。既存の建物を活用して、化石展示を行っても、人は見に来ない。東日本大震災前にあった魚竜館でも、展示よりも物販や飲食の方にお客さんは流れていたと思うので、展示自体は交流人口を伸ばすことに繋がってはいなかった。ただ、展示があれば、化石がどういうものか分かっていただくことができる。そのスペースがありつつも、しっかり化石発掘体験ができ、学べる、周辺の施設で食べられるといったことがベストである。

(今藤委員)

歌津の魅力は化石とハマーレ歌津であると感じる。施設を建設するにあたり、発掘体験ができる機能は必要であると思う。また、整備した後も、機能を追加することはありだと思う。ただ、難点としては、ハマーレ歌津の場所は、三陸自動車道のインターチェンジから少し離れているので、そこに寄り付けるような宣伝が必要になる。ハマーレ歌津付近に施設を建設していくというのは賛成である。

事務局への質問になるが、予算規模はどれくらいを見込んでいるのか。

(小野寺課長)

予算につきましては、現時点で、どのような施設を建設するのか決まっていないので、持ち合わせておりません。

(中村委員)

国の交付金を活用予定との説明を受けたが、上限額と補助率を教えて欲しい。

(小野寺課長)

上限額は10億円で、補助率は2分の1となっております。

(三浦委員)

ハマーレ歌津の空き店舗は現在2店舗だが、もうすぐ経つと3店舗となる予定だ。また、再来年頃には、契約更新が待ち構えている。そのタイミングで、店舗を空ける方がいることが想定される。観光交流施設の建設は明るい話題でもあるので、周辺施設とうまく連動し、少しでもお客さんが来ていただけるようになってもらいたい。

(佐藤委員)

歌津観光交流施設の件で、観光協会スタッフ並びに会員と意見交換をした。その中で、ネガティブな内容として、財政難であり、多くの事業の予算規模が下がってきている中で、新たな施設を建設するというのはとても不安であり、観光協会では311メモリアルの運営を町から任されているが、四苦八苦することがある。更に、新たな施設を作ることが少し気になるので、既存施設の利用を検討すべきとの意見があった。ポジティブな内容としては、化石や漁業体験、更に、歌津には専門店等の既存のコンテンツがあるので、それらに対してフィールドに飛び出すようなインフォメーションがあったり、そこに行きやすい仕掛けみたいな拠点になる場所は確か

に必要であるとの意見が挙げられた。ハマーレ歌津周辺が拠点になり、エンジンになるような箱物を建てるといったハード面よりかは、今ある空間を上手く活用していくソフト面に力を入れていく方がいいと考えている。東京ですら観光施設が潰れている状況を踏まえれば、柔軟な考えが必要になる。また、先月開催された、歌津の観光を語る夕べでも挙げられているが、歌津の魅力としては、海、化石だけでなく、歴史や文化も外せない。それらに連なるように山も重要。林業家の方からしても、歌津の山は、しっかり育成されており、生産林としても環境林としてもレベルが高い。これを踏まえれば、歌津は海と山が密に繋がっている地域である。

先の話にはなるが、どんな施設を作っても、最終的には情報伝達を行うターゲットを誰にするかというのが大切である。例えば、夜市等を開催する際には、ターゲットになる方々に対してしっかりとPRを行っている。その結果があり、多くの方々に楽しんでもらっている。以前、歌津地区においてもUFO関連のイベント行ったが、歌津には独特の風土があると感じていて、文化的な部分やサブカルチャー的な部分についても多くの方々に楽しんでもらったので、そういったものも引き出していきたい。

(及川会長)

皆様、ありがとうございました。

今、委員の皆様から多くの意見がでましたが、事務局において、その内容を記録していただいて、次に開催される委員会までにまとめていただき、基本コンセプトのたたき台を作成してもらいたい。

(三浦委員)

交流施設は誰が運営するのか。

(小野寺課長)

その件は、まだ先の話になります。まずは、基本コンセプトを設定し、次に立地場所、その後に施設機能、最後に運営主体という流れになります。先月行われた、歌津の観光を語る夕べでは、参加者の皆様から、いろんな機能が欲しいとの意見をいただきました。しかし、既存の施設に欲しい機能がないのは、誰もできなかったことが大きいといった意見もあり、今後、誰がそれを担っていくのが重要であるという話も出ました。

(佐藤補佐)

本日の委員会の目標としては、基本コンセプトを決めたいと考えております。佐藤太一委員が発言された内容の海と山が繋がっているという横軸に対して、数千年前の化石が現代に残っているといった縦軸がうまく合致しているのでこれを、基本コンセプトの材料に使えないかと思いました。

(及川会長)

平成の森やハマーレ広場も有効に活用して連携することで、スポーツツーリズム的な取組も可能なのではないかと考えている。

(佐藤補佐)

今回検討している施設がハブとなっていていろんなところに結びつけられれば最適だと考えています。

(佐藤委員)

そもそも皆さんが目指しているものは「連携」だと思うが、そのためには観光交流施設といった箱物建設をすべきなのか、それとも繋がり合う状態を作ることなのか、基本コンセプトにも関わるが、どちらなのだろうか。

(牧野副会長)

施設運営を誰が担っていくのかという点に不安を感じていたが、委員の方々の意見を聞くと、そういった後ろ向きの意見が出てきていない。

(小野寺課長)

もしかしたら、先の段階の具体的な機能の協議の際に意見が出てくるかもしれないと感じています。

基本コンセプトについて、町では、賑わいを創出したいという、ざっくりとした考えがあります。そのためには、今の課題は何かを洗い出す必要があります。本日の委員会で、皆様の意見を聞いていると、資源を活かしきれていないという課題があると感じました。その資源をどのように活かしていくのが、基本コンセプトに繋がるのではないかと考えております。

(牧野副会長)

資源と言えば、朝市的なものをやってみるのもいいのではないだろうか。

(阿部洋委員)

漁師の方々が手間をかけてまで持ってくることは考えられない。

(牧野副会長)

海沿いに住んでいる方が、出店することを覚えていただければ、徐々に浸透していくのではないかと思っている。

(佐藤委員)

これまで話を聞くと、ソフト的な話が出てきている。建物建設というよりは運営組織であったり、仕掛次第で全部解決できるような感じであるとも思っているのだが。

(及川会長)

現在、歌津地区に交流施設は何もないといった視点であり、施設が建設されることで、ある程度の人数が集まり交流できる場所となる。それを核として、様々な施設と連携をしながら価値を高めていくと私は感じている。

(佐藤委員)

ハマーレ歌津も交流施設だと思っている。

(及川会長)

ハマーレ歌津内にもかもめ館があり、保健所の許可をいただき料理等ができる場所があるが、多くの方が集まるスペースはない。

(高橋委員)

実際に、かもめ館を利用し、化石の展示をしているが、利用者数は伸びていない。今のままでは何ともならないので、今回、新たな拠点ができることで、周りを活性化させることができるのではないかという考えで話を進めたらよろしいのではないだろうか。

(佐藤委員)

これまでの話の流れだと、求めるものが多すぎるが、歌津を盛り上げる組織と、その拠点になる多目的施設といった位置付けになる。

(高橋委員)

食べる、見る、体験するというのが大切だと思っていて、観光客を呼びつつも、平日は地元の子どもたちと関わるといったことが重要かと考える。

(及川会長)

皆様から基本コンセプトに関する多くの意見が出ましたので、事務局にて整理をしていただきたいと思います。

(小野寺課長)

貴重な意見ありがとうございます。

今日いただいた意見を基に基本コンセプト案というものを何案か叩き台として作らせていただきますので、次回はそれについて、ご意見をいただきながら最終的に基本コンセプトというのを決めていければと考えております。

皆様から機能に関する意見もいただきましたが、まずは、施設の立地場所についても、いただいた意見を加味しながら、次回の委員会では航空写真等を用いて、共通認識を持てるような形で、場所の選定を進めたいと思います。また、新築だけでなく、既存施設の活用といった声もありましたので、その点も検討したいと考えております。

次回の会議の開催日時について、この場で決めたいと思います。

【調整した結果、令和8年8月7日（金）午後3時に決定】

最後に、閉会の挨拶を牧野副会長お願いします。

(牧野副会長)

本日は、皆様出席いただきありがとうございました。検討委員会の集まりは残り3回となっております。今後も、歌津地区だけでなく南三陸町が活発となるような施設の建設ができるように

取り組んでいけたらよいと思っております。今日は大変お疲れ様でした。

午後 5 時終了